

理事長所信

常滑青年会議所 2025 年度
第 64 代理事長 庄村一哉

【はじめに】

我々が迎える新たな年度は、挑戦と変革の時代であります。私は未来を切り拓くための確固たる決意を胸に、理事長としての任を引き受けました。創立から今日に至るまで、我々が青年会議所活動をできているのも、諸先輩方のご尽力や、日ごろからのご理解とご支援、ご協力をいただいている関係者団体、地域住民の皆様のおかげであると改めて心から感謝申し上げます。

近年、テクノロジーの発展やグローバル化、気候変動や自然災害といった環境問題、コロナ禍のパンデミックなど不測の事態が次々と起こっています。世界が変化するスピードは速く、私たちの価値観も変容し、今までの常識が日々更新され、新たな転換期を迎えています。

今後とも予測ができない未来をどう生きていくのか、青年会議所はどうあるべきなのか。私たちの活動もまた新たな課題と機会に直面しています。我々が向き合う課題は決して小さくありませんが、そこに大いなる可能性が秘められています。未来を形作るのは、今この瞬間の決断と行動です。我々常滑青年会議所は、変革の波に乗り、次代の先導者として地域社会に光をもたらすために挑戦を続けていきます。

途切れることなく 64 年にわたり受け継がれてきたバトンをお預かりする者として、引き継ぐところは引き継ぎ、変化を恐れず新しい手法も取り入れ、私は常滑青年会議所のメンバーと共に更なる成長を目指し、将来の 70 年目、100 年目に向けて新しい時代の礎を築いてまいります。

【リーダーシップ育成】

先行き不透明な時代において組織に求められるのは、多様な立場の人からの意見を踏まえて物事をまとめ、解決していく力と言えます。1 人のリーダーがチームを牽引するばかりでは、状況の変化に対応しきれません。そこで取り入れていきたいのが「シェアードリーダーシップ」です。従来の組織の長となる人のみがリーダーというトップダウン的なリーダーシップとは異なり、メンバー全員が当事者意識を持ち、リーダーとなることです。

将来の予測が困難な VUCA（ブーカ）時代の到来により、迅速かつ適切な意思決定が必要になります。VUCA とは「Volatility：変動性」「Uncertainty：不確実性」「Complexity：複雑性」「Ambiguity：曖昧性」の 4 つの単語からなる造語で、変動性が高く、不確実で、複雑性・曖昧性が増す社会の状態を意味する言葉です。たとえば、IT 技術の急速な進展や新型コロナウイルスの感染拡大など、前例になかったイレギュラー対応も増え、これまで通り一人のリーダーによる一方的な指示よりも、メンバー全員がリーダーシップを発揮す

ることで、さまざまな視点から柔軟かつ迅速な判断や意思決定が可能になります。全体を見渡し、自発的に行動をし、各メンバーが自身の専門性や強みを活かし、状況や課題に応じて各自がリーダーとして行動することで、多様なバックグラウンドや視点から、新しいアイデアや革新的な解決策が生まれ、個々の成長や、組織の発展がなされるはずです。

リーダーシップとは理想を描き目標を掲げ、主体的かつ能動的に行動ができる、未来を切り開く原動力です。私たち青年会議所は、一人ひとりのリーダーシップを育むことで、各メンバーが自らの成長を追求し目標達成に向け共に磨き合うことで、組織全体の可能性を広げ、より強固で影響力のある存在となるでしょう。

【組織のアップデート】

本年は一人ひとりの強みを生かし、メンバー全員が挑戦し活躍する、骨太で影響力のある組織へと常滑青年会議所を変化させていきます。近年、少子高齢化により50歳未満の人口が二人に一人と社会の支え手となる労働人口は減少し続け、人手不足問題は益々深刻になることが予想されます。この環境下の中で人員の確保は簡単ではありません。常滑青年会議所も会員数が減少傾向にあり、入会間も無い会員や、入会から卒業までの期間が短い会員の割合も増加しています。組織を維持、発展させるために人財配置の最適化を図り組織全体の効率を向上させることで一人ひとりの能力や特性を最大限に発揮できる団体へと構築します。そしてなにより、会員拡大は不可欠な取り組みです。理想は人が自然と集まる組織です。「入会してもらおう」のではなく「入会したい」と思ってもらえるような組織へ導きます。

そのためには、ダイバーシティを推進し多様な価値観を組織に取り入れ、時代に沿ったアイデアを実現するため女性はもちろん、さまざまな属性を持つ人財が必要です。拡大力とは組織力なのかもしれません。強く、価値の高い組織になればなるほど、人は自然と集まってきます。その意識をメンバー全員が共有し、多くの人の興味や関心を自然に引き寄せる、心を動かせる、共に活動したいと思われることが、組織を強くする拡大へとつながると信じています。

私たちは、メンバーの家族や職場から応援してもらえる青年会議所を目指していきたいです。明るい豊かな社会は、自分の一番大切な人たちの為ではないでしょうか。メンバーが周囲を幸せにできる、常滑青年会議所が更なる魅力あふれる期待でいっぱいの組織となり、家族や友人、社員から愛される組織へと推進してまいります。

【地域活性化】

地域の活性化は、地域経済の成長を促進し、青年会議所の活動をより広く深めるための重要な取り組みです。パンデミックの影響が続いた数年間が嘘だったかのように、日本全体のインバウンドは順調に回復し、これからも益々拡大すると見込まれます。常滑市は中部の世界の玄関口として、多くの人々が行き交うまちであり、観光客の増加から地域経済

の活性化が期待できます。そのため、まちの発展を目指す青年会議所として、地域資源の活用や持続可能な仕組みの構築に貢献し、地域に根ざした新たな価値を創出することにより地域社会の発展を支えています。

また常滑青年会議所は、昨年からタイとの姉妹提携を進めており、今後も海外の青年会議所や関連団体との提携も強化し国際的なネットワークを構築することにより、世界の人々とのつながりを広げてまいります。青年会議所が持つつながりを最大限に活用し、多くの方々と連携し、新しい情報や機会が共有される場を提供することで、人脈を広げ仕事を与え合うだけでなく、地域に新たなチャンスを生み出します。

また、チャンスがあっても挑戦しなければ、大成功はなく、特に挑戦は若者の特権であり、若者が挑戦しなければ地域も国も確実に滅びていきます。「挑戦しろ！」と私たちがいくら叫んでも、挑戦者は増えません。知らない誰かが挑戦して成功した話を聞いても、それは他人事でしかありません。しかし、身近な人が挑戦して華々しい実績を上げたならばそれは自分事となり、自分にできる挑戦は何だろうと考え始め、目線が上がり視野が広がります。失敗を恐れず安心して取り組める環境の構築が必要であり、挑戦者に対するフォローアップ、そして挑戦を高く評価できる地域づくりが求められます。

そして、良い活動を行っても、それを周知しなければ住民や地域には届きません。「常滑青年会議所って何をやっているの?」と思われていることも多いと思います。認知されていなければ、やっていないのと同じです。活動に対する説得力に欠けます。近年の SNS 普及により、いつでもどこにいても情報が得られる、また発信がリアルタイムでできる時代です。SNS を通じて広報活動を行うことで幅広い層に効率よく情報が届けられるでしょう。あらゆる媒体を駆使して青年会議所がどのようなことをしているかを発信し、認知度を高め、より多くの市民の共感を得て応援していただけるよう、積極的に行動を起こし、地域における経済活性化を推進してまいります。

【柔軟で的確な総務運営】

総務に関わる担いは常滑青年会議所の中でも重要な役割を果たしています。建物の柱をどれだけ丈夫で強固なものにし補強を行なっても、基礎が傾くと建物全体が崩れてしまいます。組織も同様に、基礎部分である土台が組織全体を支え、絶対的安心な地盤となれば、メンバー全員が不安なく高い目標に挑戦ができ、行動を積み重ねていくことが可能です。その中で総務は裏方のように補助的なイメージがあるかもしれませんが、総務運営が青年会議所の運動の起点になると考えています。なぜなら、議案や資料に書かれる一文字一文字が私たちの運動そのものを表現しているからです。また、お金の管理や会議を運営し、理事会や総会の場で活発な議論を促し、円滑で淀みのない運動を実現するための機会を提供しています。この組織運営が時代に適した形で柔軟に改善されることで、成果の高い事業を生み出すことにつながると確信を持っています。

青年会議所は単年度制です。だからこそ、この 1 年で取り組み、目指すものは持続可能な組織であり、社会にとって必要不可欠な存在でなければなりません。これまで築き上げ

られてきた基盤を十分に活用しつつも、過去の在り方に留まることなく、より良い組織運営のために新しいアイデアやプロセスの取捨選択を行いながら、組織の進展に向けて挑戦し、最大限の結果を出せる組織運営を試行錯誤し最適化してまいります。

【結びに】

私は青年会議所に入会して10年が経過しましたが、これまで社業を言い訳に活動に向き合ってきませんでした。縁あって前年度に副理事長をお任せいただき、青年会議所と向き合う覚悟を決めた私は、地域との関わり合いの大切さや仲間と向き合うことなど、たくさんの学びや成長のきっかけをいただきました。社業との両立は決して、容易なものではありません。しかし、青年会議所で行うまちづくりや人財育成、交流渉外や青少年事業は今後も社業を発展させ続ける上で大切な要素であり、相互に影響し合い、成長の機会を提供してくれるものだと改めて実感しました。

この度、理事長を引き受ける際に背中を押してもらった言葉があります。

「成功を目指すとき、人は周りの誰もがやったことの無いことをやろうとする。そうじゃない。まずは自分がやったことが無いこと、これをやり続けなさい。」

「やる」か「やらない」かを迫られた時、自分がやらなきゃ誰がやる！という自主性、困難にぶち当たっても逃げない覚悟、最後は自分の意思で決めるという決断力を持って、常滑青年会議所は、迷いなく「やる」を選択し、自らの成長の機会と受け止め行動ができる集団でありたいです。ここで培った学びを最大限に社業に活かし、その成果から地域社会へさらなる貢献へ、そして守るべき大切な未来の豊かな礎へと。そんな好循環を生み出す組織となり、地域から求められる団体を目指しましょう！

入会したきっかけは人それぞれです。きっかけはどんなことでもいいと思います。自己啓発、人脈作り、社業拡大・・・大いにその目的に向かって全力で取り組んでください。そして周りの愛すべきもののために成長を果たして下さい。

今期、常滑青年会議所は、過去最少人数でスタートを切ります。経験年数も過去最少です。ただし、現状を悲観することはありません。想いを伝え易く柔軟に変化を起こせる環境、それぞれがリーダーシップを発揮でき組織を動かせる楽しさ、常滑青年会議所の未来を背負うやりがい、これら全てエネルギーに変えていきましょう。

さあ、やるぞ！常滑青年会議所、本領発揮の年です！

最後に、メンバーは今年一年、挑戦と変革の年にして下さい。悔いを残さぬよう熱く熱く。また、関わった人たちを楽しませてください。そして自分自身が楽しんでください。

この度は、理事長という大任を与えていただいたこと、改めて心から感謝申し上げます。一年間どうぞよろしく願いいたします。